

三月五日藩用の印鑑を各驛に下附し、この印鑑を携行せずして人馬を徴發せんとするものある時は、村中として逮捕すべしと通牒し、又寛永十六年二月二十日には、領内の傳馬を廢し、自今藩用の荷物たりとも貨錢を拂渡すべきことを定め、これより以後全く無貨の傳馬は廢せられた。但し士人又は寺庵の使用するものと、商人の使用するものとは、駄賃に高下の差があつたと見えて、寛延二年三月の觸には、商人の荷物を士人の傳馬たる名義によりて運搬せしめる弊あるが爲、馬借の困難することを述べてゐる。

テンマバシ 傳馬橋 金澤の橋名。今は絶えて無いが、横傳馬町入口なる鬼川の橋であらう。此の橋ならば今は鬼川橋と呼ぶ。或は傳馬町入口の鬼川に架けた橋ともいふ。

テンママチ 傳馬町 金澤の町名。改作所舊記所載寛文十年の届書に傳馬町後川除と見え、元祿九年の地子町肝煎裁許附に傳馬町・下傳馬町・横傳馬町・後傳馬町と四町に分けてある。今は上傳馬町・下傳馬町・横傳馬町・裏傳馬町である。傳馬町は舊時傳馬馬借の居た爲に起つた名稱であらう。

テンマングウジュンバイ 天満宮巡拜 金澤で天満宮を巡拜するに二十五ヶ所あつた。

- 一、三間道 玉泉寺
- 二、泉寺町 西方寺
- 三、蛤坂町 眞長寺
- 四、蛤坂町 願行寺
- 五、蛤坂町 成學寺
- 六、古寺町 寶來寺
- 七、犀川嶺 寶久寺
- 八、三社 常光寺
- 九、長田 成應寺
- 十、古道 出雲寺
- 十一、廣岡 顯證院
- 十二、廣岡 放生寺
- 十三、田丸町 燈明庵
- 十四、白鬚 持明院
- 十五、鍛冶町 八幡社
- 十六、瓢箪町 崇禪寺

十七、淺野 山王社 十八、山ノ上 春日社
十九、卯辰 乘龍寺 二十、卯辰 來教寺
廿一、卯辰 感應寺 廿二、卯辰 八幡社
廿三、並木町 天道寺 廿四、吹屋町 乾貞寺
廿五、田井 天神社

テンミヨウ 天苗 金澤泉寺町香林寺の住僧。寶圓寺九峰の女犯事件が起つた時、天苗は之を脅喝した爲己の素行亦暴露し、文化十二年十月七日野町郊端に於いて磔刑に處せられた。

テンメイシヤゴウチヨウ 天明社號帳 寶曆の調査に洩れた神社、又はその後建立した神社を調査するため、天明七年更に神主・社僧・山伏等から書上げしめたもので、寶曆の社號を載せ、末に洩社を記してある。

テンヤヲエモン てんや尾右衛門 藩政時代歳末に來る藤内の物貰ひで、餅を搗く姿態をなし、女装した者が餅をかへす状をするのであつた。その唱詞は『てんやの尾右衛門、餅搗きどこや。餅搗きやこなた。權太餅や飛びつく。大豆餅や吸ひつく。千貫萬貫萬々貫。』といふのである。金澤では餅の負搗をする店をテギヤとかテンヤとかいふが、その義は明らかでない。權太餅は粳と糯と交へて搗いた餅である。

テンヨウソユウ 天鷲祖祐 曹洞宗の僧。加賀の人。丹波永澤寺の通幻寂靈の教を聞き、同國村雲山に庵を結びて居り、明徳二年再び寂靈に謁して衣法を授けられた。將軍足利義滿が法華萬部を誦せしめた時、祖祐をしてその式を讀揚せしめ、又應永元年尾張の太守が正法寺を立てるや祖祐を屈請した。祖祐乃ち通幻を始祖として、自ら二代となつた。

次いで總持寺に上り、泰平寺・青原寺に歴住し、丹波の洞光寺・尾張の雲興寺の開山となつた。應永二十年正月二日七十八歳を以て寂。
テンリユウ 天龍 ↓ブツカイテンリユウ 佛海天龍。

テンリユウジ 傳流寺 鹿島郡井田に在つて、眞宗東派に屬する。
テンリユウジリヨウ 天龍寺領 親元日記文明十四年五月十八日に、『靈山如意庵雜掌、天龍寺領賀州横江庄年貢内本役二百貫文事、帶御判以下數通證文當知行之處、近年最少分致其沙汰有名無實也云々。』とある。横江庄は石川郡である。

テンリヨウ 天領 ↓バクフリヨウ 幕府領。
テンリン 天麟 金澤桂巖寺の住持。初め當寺に五百羅漢の安置を發願した爲に羅漢和尚といはれたが、寶圓寺九峰の女犯事件に連座して入牢し、文化十二年十月六日野町の刑場で磔刑に處せられた。

ト

トアヒ 土合 能美郡大野の内の小字。
トアヒ 渡合 鳳至郡三井郷に屬する部落。
トアヒ 渡合 鳳至郡仁行の内の小字。
トアヒ 渡合 鳳至郡渡合に在つた。一に姫城といひ、興徳寺城迹と記されるのも亦是かといふ。渡合と興徳寺とは隣邑である。城主は三井某であるといふがその傳は明らかでない。

トアヒバシ 土合橋 能美郡小松から、尾小屋往來によつて金平に入らんとする所、大杉谷川に架けられ、金平鑛山の隆盛なる頃は藩の直普請で、近郷に見るを得ぬ壯大のものであつた。寶永誌に、『土合と申所に橋御座候。此橋の由來は、昔この兩合に堂有之候。以前堂相と書申由に御座候。然共唯今は土合と書替り申候。』とある。

トイタゴウ 戸板郷 石川郡に屬する。藩政時代では西念新保・若宮・若宮出二屋・北廣岡・南廣岡・北・長田・三社・二口・藥師堂・淵上の十二ヶ村があり、外に無家の地に二口六町があつた。金澤のうち三社町・折違町・古道・廣岡町・長田町・宗叔町・長町・元車町・高儀町・富本町・法船寺町・五枚町・傳馬町・古寺町・出大工町・木倉町等も、もとはこの郷内の地であるといはれる。

トイタヤ 戸板屋 金澤笠市町に在つた酒造家で、數代連綿した。酒造家として能く繼續したものはこの戸板屋であるといはれたが、明治十八年その家を賣却した。

ドイツキ 土一揆 加賀に於ける一向宗徒の一揆のことを、一向一揆と呼び慣らしてゐるが、それは後世からの稱で、當時は土一揆といふたのである。結番日記文明九年三月廿二日に、『加賀土一揆能州へ打入。陸涼軒日録長享二年五月廿六日に、『加州土一揆蜂起、相圍富樫介城。』親長卿記同年六月廿三日に、『富樫介於加賀國興土一揆有合戰事。』など見える。
ドイハラマチ 土伊原町 金澤の舊町名。元祿の頃から百姓町になつた。土伊原の名義は不明である。